



ほっかいどう  
**生涯学習**  
Lifelong Learning

ホームページアドレス <http://www.hsgk.jp>

新しい自分との

出合いや発見がきっとある



## 目次

●道民カレッジからのお知らせ……………	2	●「ほっかいどう学」ネット検定……………	5
●平成29年度大学インターネット講座ほか事業紹介……………	3	●随想39……………	6
●わがまちの生涯学習……………	4		
●私の生涯学習……………	5		

## 道民カレッジからのお知らせ

### 主催講座

- ◆**地域活動実践講座（新規）**
  - ・道民カレッジ生が行っている地域活動の交流をとおして、道民カレッジ生の地域活動への参画を促進することを目的とします。
  - ・レポート参加者は「地域活動」必修5単位、一般参加者は「地域活動」必修2単位認定
- ◆**地域活動インターネット講座（新規）**
  - ・地域で活躍する際に必要な知識や技能に関する内容を年間2回程度インターネットで配信します。
  - ・30分程度の講座を視聴し、レポート提出で1講座につき「地域活動」必修1単位認定
- ◆**「ほっかいどう学」大学インターネット講座**
  - ・道内の大学と連携しながら、インターネットにより広く道民に高度な学習機会を提供し、北海道への興味・関心を高め、地域についての学びを深めるきっかけとします。今年度の参加大学・講師は次ページのとおりです。
  - ・インターネット講座を視聴後レポート提出により「ほっかいどう学」必修1単位認定
- ◆**「ほっかいどう学」地方創生塾**
  - ・地域の様々な機関や住民等と連携し、ワークショップや講演等の実施をとおして地域活動やまちづくりに貢献する人材を育成し、地域活動の活性化に寄与することを目的とします。
  - ・講座8割以上の出席により「ほっかいどう学」必修4単位認定

### 連携講座

- ◆**ほっかいどう学科**
    - ～地域の理解や活動に関わる講座
    - ほっかいどう学コース
      - ・北海道内の歴史や民族、地域学など、地域への関心を高めることや理解を深める講座です。
    - 地域活動コース（新規）
      - ・北海道内のボランティア活動や地域活動に関わる講座です。
  - ◆**教養学科**
    - ～個人の学びが目的となる講座
    - キャリアアップコース
      - ・知識や技能・資格など、専門性を高める講座です。
    - 環境・生活コース
      - ・社会生活を行う上で必要な知識をテーマにした講座です。
    - 健康・スポーツコース
      - ・健康づくりや体力増進など、健康・スポーツをテーマにした講座です。
    - 教養コース
      - ・人生を豊にする幅広い知識や教養をテーマにした講座です。
  - ◆**ジュニア学科**
    - ジュニアコース
      - ・北海道を担う子どもたちの生きる力の育成を図ることを目的とした講座です。
- \*連携講座の情報は前期（4月～9月）と後期に（10月～3月）発行されるガイドブック及びホームページで検索することができます。

## 称号について

所定の単位を取得後、道民カレッジ事務局に申請すると称号が認定されます。  
学士、修士、博士は、コースごとに称号が認定されます。  
称号取得のための単位の内訳は次のとおりです。（平成30年以降の申請に適用）

#### 【学士】

- ・必修単位 ほっかいどう学、地域活動の指定講座 8単位  
（地域活動コースから2単位以上）
- ・専門コース単位 ジュニアを除く6コースのうちひとつのコースから60単位
- ・選択コース単位 必修も含む取得単位すべてから32単位
- ・合計 100単位

#### 【修士】

- ・必修16単位 専門コース120単位 選択コース64単位 合計200単位（学士100単位含む）

#### 【博士】

- ・必修24単位 専門コース180単位 選択コース96単位 合計300単位（修士200単位含む）

#### 【学長奨励賞】

- ・博士を取得後、コースに限らず、総取得単位数が1,000単位ごとに授与

## 平成29年度大学インターネット講座が始まります！

講座配信は平成29年11月を予定しています。

また、補助教材を1冊1,000円で販売します。購入者には講座DVDをプレゼントいたします。

詳細は事務局までお問い合わせ下さい。

大学名	講師	タイトル (仮)	分野 (仮)
北 翔 大 学	短期大学部 小ども学科 教授 菊地 達夫	産業・企業立地の優位性 ～地理学習で北海道を考える～	産業
北海学園大学	法学部 准教授 官田 光史	政治家としての浅羽靖 ～20世紀初頭に描いた北の未来図～	文化・ 歴史
北星学園大学	短期大学部 准教授 遠藤 太郎	美しさの起源はアテネ？ローマ？ ～小樽の銀行建築に古典主義様式を探る～	芸術・ スポーツ
北海道情報大学	経営情報学部 先端経営学科 准教授 藤本 直樹	見方を変えれば味方になる！ ～やっかいものの雪で地域活性化～	産業
北海道教育大学 岩 見 沢 校	スポーツ・コーチング科 講師 大山 祐太	障害も世代も超えて楽しもう！ ～アダブテッド・スポーツのススメ～	芸術・ スポーツ
札幌学院大学	人文学部 准教授 井上 大樹	すべての人に“学び”を届けたい ～学習サポーターのススメ～	地域活動

## 平成29年度ほっかいどう学かでの講座 開催中!!

(公財)北海道生涯学習協会が主催している「ほっかいどう学」かでの講座は今年度も、北海道の歴史や道産子の家系を読み解く講座など多彩な講師を招聘し、9月27日(水)で第7回目が終了しました。

講座修了後のサロン懇談会にも積極的に参加いただき、日頃の疑問を講師に質問していただきました。

後半は農業者やフリーアナウンサー、漁業を専門とする大学教授などを講師にテーマも多岐にわたります。ご予約のない方も受講できるように会場を用意しておりますので、是非お誘い合わせの上おこし下さい。

場 所：札幌市中央区北2条西7丁目 道民活動センター (かでの2・7ビル4階大会議室)

受講料：1講座500円(賛助会員は割引券利用で100円引き)

詳細は事務局までお問い合わせ下さい。

回	期日	タイトル・講師名	分野
8	10月3日(火)	「北海道におけるスマートアグリ事業～札幌から新しい農業始めます～」 (JFEエンジニアリング株式会社 顧問 三部 英二氏)	農業
9	11月7日(火)	「NHKと民放で17年！～アナウンサーの仕事と番組の裏話～」 (フリーアナウンサー 藤原 佐智氏)	文化
10	12月5日(火)	「現代の魚食と日本社会」 (北海学園大学経済学部教授 濱田 武士氏)	漁業

## ■平成29年度生きがいがづくり生涯学習促進事業

「生きることは学ぶこと」の視点から、これまでも道民の方々に広く学習の機会を提供してきている本事業を今年度は7会場で開催します。

この事業は、道民カレッジ連携講座に指定しています。

開催日	市町村名	主 な 内 容
6月24日 (終了)	七飯町	講演「ユニカールについて」 実技「ユニカール体験」
7月10日 (終了)	標津町	講演「運動のある生活に向けて～人生を豊かに過ごすために」 実技「スポーツ吹き矢」
9月25日 (終了)	美深町	講演「笑い笑顔のある生き方」 実践発表「COMカレッジ110美深大学生による実践発表」
11月予定	清水町	講演「生涯スポーツとは」 実技「軽スポーツ体験～チャレンジ・ザ・ゲーム」
11月20日	沼田町	講演「豊かさを実感できる生き方」 実技・演習「趣味・教養・ボランティア・余暇の上手な使い方」
11月25日	利尻町	内容調整中
12月21日	新ひだか町	講演「生きがいがづくりについて」 実技「7つのクラブ活動」

# わがまちの生涯学習

芽室町教育委員会

教育長 武田孝憲

芽室町は、日高山脈の東、十勝平野の中西部に位置し緑豊かな田園都市です。基幹産業である農業を中心に食料品製造業などの農業関連企業が数多く立地するなどバランスのよい産業構造となっています。本町では「みどりの中で 子どもにやさしく 思いやりと 活力に満ちた 協働のまち」を目指し、すべての町民が快適な生活を営み、誇りを持って暮らし続けることができるようまちづくりを進めています。

## □「緑の風の中でふれあい学びあい」を目指して

本町の教育は、「地域の特性を生かした教育の充実」、「生涯にわたる道德教育の推進」、「家庭・学校・地域などが連携しながらまち全体で教育を進める」の3本に重点をおきながら、全ての町民がより充実した生活を送ることができるよう取り組んでいます。

その中の一つとして、芽室町で考案され、本年生誕70年の節目の年を迎えたゲートボールに関する取組などについてご紹介させていただきます。

## □ゲートボールは芽室町生まれ

戦後間もない昭和22年春、芽室町で製パン業を営んでいた鈴木栄治（後に和伸と改名）氏は、戦後の物資不足の中でなんの遊び道具もない子ども達のために「何か健全なスポーツはないものか」と考え続けていました。たまたま北海道に木材が多かったことから、これを利用して軍隊時代に知ったクロッカーをヒントに「ゲートボール」が考案されました。

実は、芽室町が発祥の地であることは、昭和59年、北海道で最初の屋内ゲートボール場を芽室町で建設した新聞記事をご覧になった創始者夫人から芽室町長にあてた手紙により、本町で考案されたものと判明したもので、何か運命的なつながりを感じさせる出来事でありました。

ゲートボール普及は、創始者の本来の目的であった子どもたちへの浸透とは反対に、手軽で体力的な負担も少ないという特性から、高齢者に適したスポーツとして脚光を浴びるようになり瞬く間に全国に広がったことはご承知のことかと思えます。今では国内だけでなく世界50か国以上に普及し、競技人口は1,000万人を超えているといわれています。



## □青少年への普及

本町では「子どもたちのために」というゲートボール創始者の思いを汲み、早いうちからゲートボール少年団を結成し活動しており、近年では全国大会で上位入賞するなど活躍しています。加えて少年団OBが若い世代への普及のため中心的に活動するなど人材が育ってきています。

また、町内の小学校ではゲートボールを授業に取り入れ、地域の高齢者が直接指導にあたるなど、地域資源を生かすだけでなく、高齢者との世代間交流や学校と地域の連携など大きな効果が期待されています。

一方で、地元の高등학교に対しゲートボール部の創設の支援や指導者の派遣などを行っており、高校の部活動として全国大会に出場するなど、今後益々の普及が期待されています。また、全国各地の高校のゲートボール部の合宿を本町に誘致し、地元の高校との交流や競技力の向上を目指した取り組みを行っています。

加えて、ゲートボールが一昨年より国民体育大会の公開競技になるなど競技スポーツとしての発展も期待されています。

## □生涯スポーツとしてのゲートボール

若年層から高齢者層まで年齢・性別を問わず、いつでも、どこでも、誰とでも同じ土俵で対戦できるスポーツとしてのゲートボールは、健康維持はもちろんですが、さらに、多様な作戦を駆使し、その場その場の的確な判断が必要で、常に頭を使うスポーツなので、精神面での若さを維持・向上するとともに、世代間交流や地域人材の活躍の場の提供など、多様な効果が期待されています。

ゲートボール発祥の地としての責務を認識し、今後も取り組みを推進していくこととしています。

## 私の生涯学習

道民カレッジ生

丸尾清一

道民カレッジ連携講座の受講を終えた後、私の中では「学んだことをどうまとめようか？」という思いが私を支配します。というのも、私の中では受講することができた貴重なお話を、私なりの解釈で、私なりの感想を綴ることによって、できるだけお話を記憶に留めたいという思いがあるからです。

そして私は、そのことをブログという形で発信しているところに、私の学びの一つの特徴があるかな、と思っています。

ブログの内容は連携講座の受講感想だけではありません。登山、フットパスウォーク、ステージ鑑賞、スポーツ観戦、映画鑑賞、旅、あるいはボランティアなど私が体験するあらゆる分野に及んでいます。

私は現職時代を道内の地方で過ごし、退職と同時に札幌へ転居したのですが、退職後4年半ほどは、第二の職場での仕事もしながら、少しずつ講演会を聴いたり、フットパスウォークに汗したりする程度でした。

私が本格的なさまざまな分野の学習や体験、鑑賞などに出かけるようになったのは全ての仕事からリタイアした65歳前後からです。

それからは日中できるかぎり家にはいないように努めました。私が学習し、行動する際の基本は「何でも見てやろう！何でもやってみよう！」という思いです。そこに“バランス”というキーワードを添えて…。そうすることで、私は自らの頭と心と体がバランスよく鍛えられると思っているのです。

私が現在関心を寄せていることは、生涯学習グループ「めだかの学校」に加わり活動していることです。このグループの特徴は、自ら学習課題を見出し、企画し、周りにも呼び掛けて道民カレッジの連携講座として運営しています。「共に学び合う」というコンセプトに私はとても共鳴しています。

こうした積み重ねが、このほど「道民カレッジ奨励賞(1,000単位取得)」、「北海道大学生涯学習学友会アドバンスト・メンバー証」の受賞(受証)という形で一つの節目を迎えました。これはこれで一つの大きな喜びです。

しかし、振り返ってみると、自分の身体を酷使しながら達成した登山やフットパスウォークにはより大きい喜びがあるようにも感じます。特に、冬期間に豊平川(河口～豊平峡ダム)、石狩川(河口～旭川市)の河畔をスノーシューで歩いた体験は私の中の奥底に強烈な記憶として刻み付けられました。

これからも健康に留意しながら、“バランス”良く、いろいろな学びや体験を深めていきたいと考えています。ブログ「田舎おじさん札幌を見る！観る！視る！」を伴走の友としながら…。

平成29年度

# 「ほっかいどう学」 ネット検定



申込期間 **9月1日(金)～11月9日(木)**  
検定実施 **11月17日(金)～11月30日(木)**

「ほっかいどう学」ネット検定実行委員会事務局  
(公財)北海道生涯学習協会内  
TEL 011-231-4111 (内線36-343)  
FAX 011-281-6664

URL <http://www.hsgk.jp/net/kentei.html>

随想39

### ものの見方と考え方

私はゴルフというものをしたことがない、というよりすべきではないとずっと考えてきた。なぜなら近代ゴルフはイギリスなどで上流社会のステータスシンボルとして定着してきたものと思ひ込み、そのようなものに憧れる感性にはついていけないと考えてきたからである。故にゴルフ場の設置は地球環境の破壊につながると考えている。飛行機で上京する時に、羽田空港近くになると眼下にゴルフ場がそこかしこに見えるが、その痛々しさは目を覆いたくなる。また、大雨が降るとすぐに川が氾濫する様は昔に比べるとスピードが違う。雨水を蓄えるための遊びの無さに原因がある。

しかしゴルファーやゴルフ好きの人は、ゴルフ場は自分たちにとって環境改善と理解するのであろう。さらに言えば、ゴルフ場の地下に前から住んでいたモグラはもっとひどく環境の破壊をうらやんでいるであろう。農薬を撒かれて生息地域を追い出された環境破壊をなげく動植物も多くいるはずである。このように物の見方と考え方は人や生き物にとってそれぞれなのである。

考古学者の瀬口眞司氏が面白いことを書いている。東の空へ昇る朝日を見て、天動説のアリストテレスとその弟子たちは太陽が動いていると感じ

るが、ガリレオとその弟子は地動説なので、それでも地球が動いていると主張するであろうと。このような、自分がそれまでに取り組んできた先行研究や理論から多かれ少なかれ影響（負荷）を受けながら観察・考察してしまう宿命にあるという「観察の理論負荷性」論を述べるのは科学哲学者のN・R・ハンソン氏である。ここにもものの考え方の面白さがある。

意見のちがう自分と他人との意見調整あるいは妥協点を見出すのはなかなか難しい問題ではあるが、個人間・集団間・民族間・国家間などで、解決していく手段や方法は異なるであろうが、争いごとに至らないようにしたいものである。

そして別の考え方もある。北海道新聞の卓上四季欄（17.3.20）に名編集者として知られた松田哲夫氏の一文ということで以下が紹介されていた。「今の時代、今の社会では一つのものが話題となると、皆そっちに殺到する。その時に、皆が振り向かなくなった過疎の田圃（たんぼ）に行って掘ってみると、楽々と宝を入れることができる」ということで、時には発想の転換の必要性があることを説くものである。今回は、ものの見方と考え方に幾通りもあることを紹介してみた。以上を是とするか非とするかも考え方の違いではあるが。

（公財）北海道生涯学習協会  
会長 宇田川 洋

### 新入会員紹介（敬称略）

次の方が新たに賛助会員になりました。

今後ともよろしくお願ひいたします。

三 鍋 宏 奈 山 崎 繁 光

※ 賛助会員（個人 一口3,000円、団体 一口10,000円）を募集しております。

詳しくは事務局までご連絡ください。

●表紙写真提供 三 原 和 廣 氏

### 編 集 後 記

秋風がさわやかに心地よく、紅葉や果物狩りなどの行楽も楽しい季節になりました。会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

今号では、道民カレッジからのお知らせや各種事業の紹介などをさせていただきました。

道民カレッジは、学生数が3万人に達し、連携講座も

### 事務局からのお知らせ

#### ●会費納入のお願い

当協会では、今年度も会員の皆様のご支援ご協力により各事業を実施しております。

つきましては、今年度の会費が未納の方は早めの納入についてよろしくお願ひいたします。



現時点で4千講座を超える申請をいただいております。

道民の皆様の学びが一層深まるよう、当協会では今後においても、大学インターネット講座、かでの講座、いきがづくり生涯学習促進事業、「ほっかいどう学」ネット検定と、様々な学習機会をご提供してまいりますので、皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。